

『輝く君の甲子園』 寸評

- ・ 夏らしいあかるく抜けるようなひびき
- ・ 低音楽器のスタッカートとテヌート (m.9-12) の使い分けがみごと
- ・ ビブラフォンとグロッケンシュピールがギリギリ一人で演奏できそうなのも、奏者を節約するよい配慮
- ・ トランペットの伸びやかさをピッコロが上手にかざっている
- ・ 曲の構成が明快で、対照部がホ短調かつトロンボーンとグロッケンシュピールの出番としたのもきいてて快い

完成度をさらに上げるために

- ・ m.16 b.2-4 トロンボーンはオクターヴ上 b.3-4 スーザフォンはオクターヴ下にしたほうが金管楽器3本の和声配置としてのぞましい
- ・ m.6 b.3-4 トロンボーンは4度上のソ
m.8 b.1-3 オクターヴ上のシのほうが、和声配置として好ましい
- ・ m.16 b.3-4 ドラムセットはスネアのロールで終わっている (音源では)
- ・ m.10 b.4 鍵盤打楽器にスラーは通常つけない
- ・ m.15-16 b.2 本来弱拍の第2・4拍 (アフター・ビート) にシンバルを鳴らしてアクセントをつけてみたい
- ・ m.12 グロッケンシュピールがないのは尻切れトンボ
たとえば m.11 b.4から



m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

野球がお好きなのがよく伝わってきます。

持魔 勉